



# 歯医者さんが教える 歯と口腔の健康管理

## 〔第38回〕 歯科所見からの身元確認

監修／歯学博士 鹿島 健司

平成23年（2011年）3月11日、東北・関東地方に未曾有の被害をもたらした東日本大震災。消防関係の方々も大変なご苦勞をなされたことと思います。この場を借りて敬意を表します。

さて、われわれ歯科医も、歯科所見の照合による身元確認に貢献しています。歯は人体のなかで一番硬い組織なので最後まで残り、ご遺体の確認に役立ちます。ご遺体の損傷が激しい場合でも、歯による身元確認は有効で、昭和60年（1985年）8月12日、520名の方が犠牲になった日航機墜落事故をきっかけに、平成7年（1995年）1月17日の阪神・淡路大震災、平成13年（2001年）9月1日の新宿歌舞伎町の雑居ビル火災（44名の方が犠牲）などでも重視されてきています。また、昭和63年（1988年）7月23日の横須賀沖で起きた海上自衛隊の潜水艦と大型釣り船との衝突（死者30名）や平成13年（2001年）2月9日にハワイのオアフ島沖で宇和島水産高校の実習船が米国海軍の原子力潜水艦と衝突した「えひめ丸事故」といった海難事故において

図1 デンタルチャート



も歯科所見で身元が確認された例が多数あります。

身元確認のために、われわれは口の状態の写真撮影や歯の状態を記録するデンタルチャートの作成を行います（図1）。

また、歯科的資料として、カルテ・X線写真がたいへん有用であり、昨今ではデジタルカメラ・デジタルX線画像解析装置などのデジタル機器が活用されるようになってきています（写真1）。



写真1 デジタルX線解析装置（左）と使用風景



写真2 東日本大震災での実際の身元確認作業（4枚とも）

写真2は東日本大震災での実際の身元確認作業の様子です。災害によって義歯を失ってしまった方や歯が悪い方は、何とか食事はできて、冷たく硬い弁当やおにぎりといったものは受け付けないことが多いようです。生きるとは食べることです。救援物資も食べられなければ意味がありません。阪神・淡路大震災では救援物資が「硬くて噛めなかった」が27.3%、食べ難かったものは「冷たいおにぎり・ごはん」が22.8%で一番多かったとの報告があります。また、震災直後の緊張感が去り疲労がたまってくると、精神的ストレスも加わって口内炎や歯の痛みが出やすいと言われています。歯科医師会の活動の中で、われわれは身元確認班とともに歯科医療救護班を設けて緊急時に十分な活動ができるよう研鑽をしています（写真3）。

今後も、東海・東南海・南海の海溝型巨大地震や、首都直下地震の発生等、予断を許さない災害の可能性が後を絶ちません。そのような際、消防関係の方々には日頃からの高い使命感の下、ますますのご活躍を期待します。



写真3 川口市防災訓練における歯科医療救護活動

監修／鹿島健司（歯学博士）。1958年1月生まれ。かしま歯科医院院長 日本大学歯学部・松戸歯学部兼任講師、川口歯科医師会理事（学術部長）